

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

君は君のままでもいい

くともにも生きる社会の実現をめざして

田辺広子(特定非営利活動法人「ハンディキャップサポートウーノの会」代表)

障がいのある人が自分らしく生きていくことができるのはどのような地域社会なのだろう。そのヒントを得るため、田辺広子さん(61歳)に原稿を寄せていただきました。

長男が生まれて

「みんなながって、みんないい。金子みすゞの詩にあるこの言葉に私はいつも立ち返り、背中を押してもらいます。この言葉がストンと腑に落ちるのは、34年前に誕生したダウン症の長男の存在があつてこそかもしれません。それまで、平凡な生活をおくって来た私に想定外の障がい児が紛れ込んでしまったのです。どうして私なの？ 幼い長男を前に悶々とする日々でした。障がいを受容できないまま、息子のいるそっち(障がい)の世界とこっち(普通)の世界を同化させようともがきました。肩肘張りながら、先輩お母さんの後について、長男を含めて障がい

生活をひらく

者が安心できる地域を作ろうと細々と活動を始めました。

今でこそ障がい者福祉の公的サービスが完全といえないまでも整ってきていますが、当時は親が動かなければ私たちが望むものは生まれませんでした。おもちゃ図書館、放課後等デイサービス(※)の前身となる「ざんかクラブ」、障がい者の働く場の「おかし工房マール」の開設など、仲間と協力して進めていくのは楽しく、大変とは感じませんでした。そして2002年9月、障がいのある人が安心して暮らせる地域を目指す特定非営利活動法人「ハンディキャップサポートウーノの会」を立ち

障がいつてなに？

そもそも世間でいう障がい者と健常者の違いですが、経済学者の松井彰彦さんは、「非障害者は、配慮が必要ない人“ではなく、”配慮されてきた人“であるということである。同様に、障害者は”配慮が必要な人“ではなく、”配慮の格差“に直面してきた人なのである」(朝日新聞平成28年4月22日付朝刊17面「読み解き経済」と述べています。まさにそのとおりだと思います。

心強さを「本」に

数年前に障がいのある人もない人も分けない居場所づくりというテーマで開催された円卓会議のメンバーに入れていただいたおかげで、地域で活躍中の異業種の方たちとつながることができました。いろんな人がご



円卓会議後に立ちあがった市民グループ「ノーマライゼーション西東京の会」の勉強会



田辺広子さん

ろう者向けの映画祭に行った友人の話です。ロビーにいる人たちが手話で会話をしている中、手話のわからない友人は当然何を話しているのかわからなかったそうです。つまり、マイノリティ(少数派)であるはずのろう者がマジョリティ(多数派)、聴覚に障がいがなく手話のわからない友人は、その場ではマイノリティになったわけです。反

上げました。ウーノの会を通して、たくさんのお会い、つながりをいたたく中で、息子を越えて「障がい者」をとらえられるようになりまし。そして自分を健常者と信じて疑わなかったことをとても恥ずかしく感じました。

数年前に障がいのある人もない人も分けない居場所づくりというテーマで開催された円卓会議のメンバーに入れていただいたおかげで、地域で活躍中の異業種の方たちとつながることができました。いろんな人がご

※放課後等デイサービス

児童発達支援センターや放課後等デイサービス事業所などで、学校通学中の障がい児に対して、授業終了後や夏休みなどの長期休暇中に行う支援

わが街をもっと知りたくて
「何ココ!?
アパートの一室に…」
寺子屋だるま
村田典子さん



地域の居場所づくりとして、今年7月7日にスタートした「寺子屋だるま」。3か月たった時点で延べ人数500人以上の人が利用しています。

寺子屋といえば江戸時代、手習いや読み書き、そろばんなどを教えたところですが、ここでは語学、手芸、パソコンや子育て、介護者の情報交換の場、一汁一菜の提供、自習室など多岐にわたり、小さなカルチャースクールや公民館のようです。

場所があることの重要さを感じていた村田典子さんが、家族が経営するアパートの一室がたまたま17年ぶりに空いたので開きま

した。12年前に同様の地域の居場所「のんたんルーム」を運営した経験や日ごろの活動からいろいろな種を蓄え、芽生えのチャンスを待っていた種が発芽したように感じます。

覚えやすく縁起の良いという七転び八起き「だるま」。ただ、「だるま」だけだと居酒屋と間違われそうなので「寺子屋だるま」と名付けたそうです。

気軽に集える場所として、人との出会いやつながりがこれからも増えていきそうです。

〈所在地〉田無町4-17-19
コーポカビル棟6号室
☎090-6475-4148

写真で見る いまむかし 保谷中学校(現在、柳沢公民館があるところ)

旧保谷市の公民館は、昭和22(1947)年10月に保谷小学校内にあった保谷中学校の中に設立されました。その後、保谷中学校は3回移転していますが、公民館も、昭和36年に東伏見小学校の敷地に独立した建物ができるまで一緒に移転しました。保谷中学校は昭和30年7月から昭和43年3月まで、現在、柳沢公民館がある場所にありました。柳沢公民館は、一時期公民館があった場所に建てられたといえます。



保谷中学校(昭和32年ごろ) 水口トミオ氏所有



開館日の柳沢図書館・柳沢公民館 昭和62年4月1日撮影 西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵